

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 火3/金2/金3	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	中国語Ⅲ/ ChineseⅢ		
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 火3:2K26 / 金2:2P18・19+2F 二 / 金3:2E10	科目分類 外国語科目(中国語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:楊 曉安 / Eメールアドレス:xiaoan@nagasaki-u.ac.jp /研究室:共同教育棟3階 /オフィスアワー:月・火・金の5校時			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法) /授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 本講では中国語Ⅰと中国語Ⅱの1年間の学習内容を整理しながら基礎学力の向上をはかる。総合中国語テキストを用いて、現代中国語でもっともよく出現する文法形式、表現形式の用法、会話のパターンなど、「聞く、話す、読む、書く」の総合的な能力の養成に重点を置き、将来もっと深く中国語科目を履修するためのより高度な中国語の習得をめざす。</p> <p>授業方法: 1. 内容は基本的にテキストにそって進める。2. 会話能力をより確実に身につけるために、テキストの内容に関連する場面を想定し、実践会話の練習をさせる。3. 各課の内容と関連ある文化的背景など説明し、学生からの質問を随時受ける。</p> <p>授業到達目標: 1. 簡単な日常会話を話せるようにする。2. 基本的な中国語を読めるようにする。3. 基本的な中国語を書けるようにする。4. 現代中国の文化や社会の一端を理解する。</p> <p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>概要: 語学の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、特に「聞く・話す」能力を高めることに重点を置き、日常会話ができる語学力を習得させる。基礎的文法をしっかり身につけることもこの授業の目標である。また、中国語学習を通じて、視野を広め、中国文化への理解をより一層深めさせる。授業では、担当教員の指導の元で発音を十分マスターしたうえで、学生二人を一組とし、単語と本文の朗読・暗唱を行う。これを基礎に、テキストの内容に関連する場面を想定し、実践会話の練習をさせる。</p> <p>第1回 第1課『休日の前』(1) ①「それはたいへん残念です」 ②「ゴールデンウィークは旅行に行きたい」 文法:【助動詞】要・想+動詞 /【副詞】更 /【接続詞】不过</p> <p>第2回 第1課『休日の前』(2) ③「中国人はゴールデンウィークをどう過ごしますか」 ④「ちょっと手伝って」 文法:「把」構文</p> <p>第3回 第2課『旅行』(1) ①「どうしてまだここで食べているのですか」 ②「ガールフレンドと一緒にいったのです」 文法:【助詞】着,了,过</p> <p>第4回 第2課『旅行』(2) ③「写真を撮ってはいけません」 ④「一番印象に残ったのは何ですか」 文法:【疑問詞】谁 / 什么 / 哪儿, 哪里 / 什么时候 / 为什么 / 怎么</p> <p>第5回 第3課『スポーツ』(1) ①「本当に恥ずかしいです」 ②「私はジャッキー・チェンの弟子です」 文法:兼語文 / 「听说, 听~说」</p> <p>第6回 第3課『スポーツ』(2) ③「オリンピックは北京で開催します」 ④「選手を応援しています」 文法:「每」と「隔」 /【接続詞】可是</p> <p>第7回 第1課~第3課の復習</p> <p>第8回 第4課『銀行で』(1) ①「口座を作ってください」 ②「確認してください」 文法:数の言い方</p> <p>第9回 第4課『銀行で』(2) ③「お金を引き出したいのですが」 ④「両替したいのですが」 文法:「二」と「兩」 / 小数と比率の読み方</p> <p>第10回 第5課『郵便局で』(1) ①「切手をください」 ②「日本まで何日かかりますか」 文法:名詞述語文 / ~左右 / 至少~</p> <p>第11回 第5課『郵便局で』(2) ③「タクシーをよびましょう」 ④「身分証明書をお持ちですか」 文法:可能補語</p> <p>第12回 第6課『電話をする』(1) ①「大都大学の電話番号は何番ですか」 ②「中国語教育センターをお願いします」 文法:「吗」と「呢」</p> <p>第13回 第6課『電話をする』(2) ③「お電話です」 ④「メールアドレスが変わりました」 文法:因为~所以~ / 不是~吗</p> <p>第14回 第4課~第6課の復習</p> <p>第15回 試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	テキスト: 高芳・劉軍『場面学ぶ中国語2』(三修社) 辞書: 上野恵司『標準中国語辞典』(白帝社)		
成績評価の方法・基準等	期末テスト(50%)、小テスト・課題(20%)、授業への積極的な参加(10%)などを総合して評価する。		
受講要件(履修条件)	単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			